

弔事に必要なものを特集しました。

水引と表書き



宗教によって異なる 弔事用の金包みの表書き

表書きは本来、包みの趣旨がなんであるかを示すために書いたものです。現在は、水引きより上に「御香典」などと口上を書き、下に差出人の名前を書きます。これは、贈るときにの礼儀として、挨拶の口上を表現したものです。

表書きは、宗教によって異なります。仏教の場合は故人にたむける香のかわりに持参するものです。霊の前に捧げる「御霊前」、仏の前に供える「御仏前」、香を供えるのが「御香典」というわけです。

神式では、香のかわりに玉串を霊前に供えます。したがって、その玉串や榊の代金として「御玉串料」「御榊料」、あるいは「御神前」などと書きます。こうした神式用の金包みはあまり市販されていませので仏教と同じ弔事用の金包みを用いてください。無宗教の場合は、「御花料」か、「御霊前」が適当です。ただし、「御霊前」は葬儀の場合のみに使用され、法事などには使いません。真宗の場合には、葬儀にも「御霊前」は使用せず、「御香典」とします。また、「御霊前」と印刷されている、袋に蓮の花の模様があるものは、仏教のみにしか使用できません。

仏事の水引と 表書きの一例

※一般的な例です。

「お寺様への御礼」

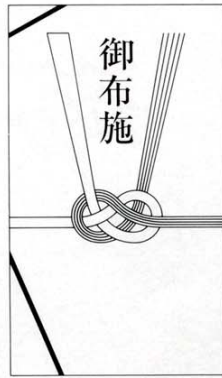
●ご葬儀の場合

■銀の水引を使用。別にお膳代・お車代を包む場合は白無地の封筒で。



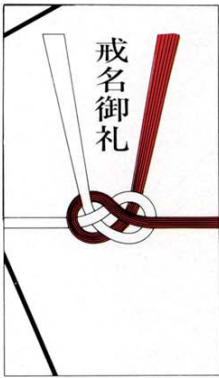
●ご法事を営まれる場合は

■黒白の水引を、忌明け後は黄白の水引を使用。別にお膳代・お車代を包む場合は白無地の封筒で。

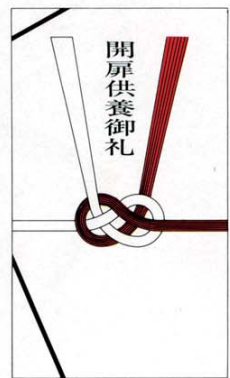


●戒名・法名を授与された時の御礼

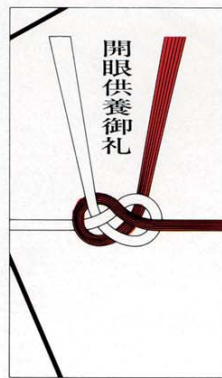
■赤白の水引を使用。表書きは（法名料・位戒料・戒名料）でもよい。



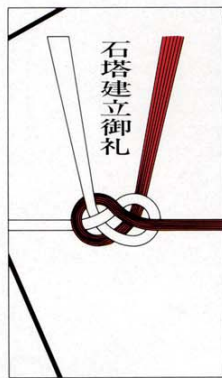
●新しくお仏壇を開扉する際の御礼
■赤白の水引を使用。表書きは（入仏慶讃御礼・御移徒御礼又は入魂料）でもよい。



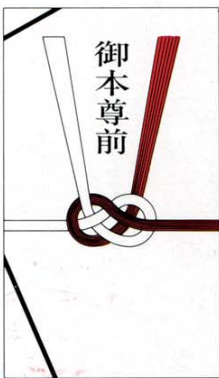
●新しくお仏像に開眼・入仏・入魂する際の御礼
■赤白の水引を使用。



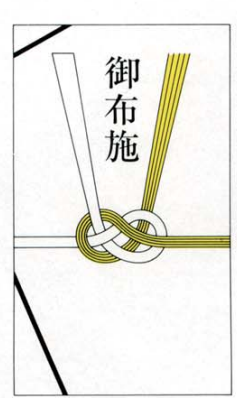
●新しく石塔に入魂する際の御礼
■赤白の水引を使用。



●仏事に関してお寺様にお世話になった時の御礼
■赤白の水引を使用。表書きは（御宝前）でもよい。



●ご法事やお盆・お彼岸に墓前で読経していただいた御礼
■黄白の水引を使用。



●御家のお仏像修理のため一時魂を抜いてもらう御礼
■赤白の水引を使用。



●御家のお仏像・お仏壇修理の為、一時的に場所が移り変わるので読経していただいた御礼
■赤白の水引を使用。



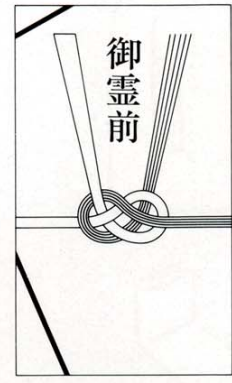
●お寺様の落慶やご住職が変わった時などのお祝事に
■赤白の水引を使用。表書きは（御宝前）でもよい。



〔ご葬儀・ご法事以外の〕
宗派別お包みの仕方

● 仏式の場合

■ 黒白の水引を使用。表書きは(御香典・御香料)でもよい。
■ 真宗では御仏前と表書きします。



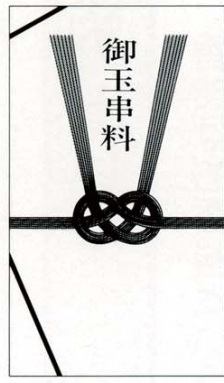
● キリスト教の場合

■ 表書きは旧教・新教とも同じ。



● 神式の場合

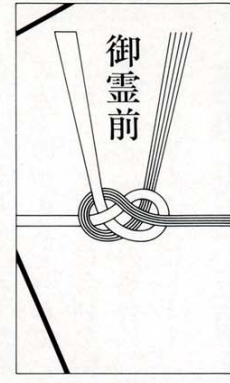
■ 銀の水引を使用。表書きは(御榊料・御神前・御花料)でもよい。



〔ご法事に訪問される場合〕

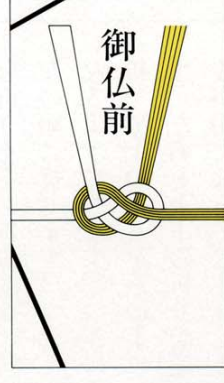
● 忌明け(四十九日)までのご法事の場合

■ 黒白の水引を使用。表書きは(御供物料)でもよい。
■ 真宗では御仏前と表書きします。



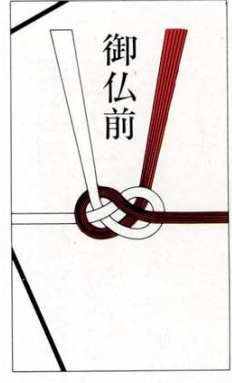
● 忌明け(四十九日)後のご法事の場合

■ 黄白の水引を使用。表書きは(御供物料)でもよい。



● 五十回忌・百回忌などの「弔い上げ」になるご法事の場合

■ 赤白の水引を使用。



〔仏事に招かれた場合〕

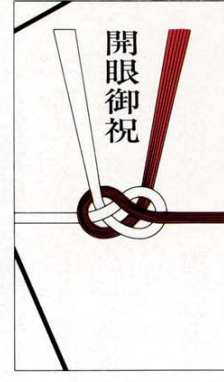
● 新しくお仏壇を購入された御家に御祝をする場合

■ 赤白の水引を使用。表書きは(入仏御祝)もよい。
※ 最近にご不幸の有無をご確認ください。



● 新しくお仏像に入魂・開眼・入仏をする御家に御祝をする場合

■ 赤白の水引を使用。



● 新しく石塔を建立された御家に御祝をする場合

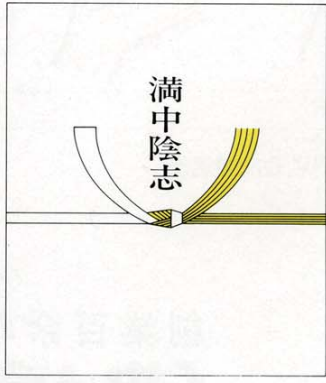
■ 赤白の水引を使用。



〔お客様へのお返し(掛紙)〕

● 忌明け(四十九日)のご法事の引出物に付ける場合

■ 黄白の水引を使用。表書きは(忌明け)もよい。



● 忌明け(四十九日)のご法事の供え物・配り物に付ける場合

■ 黄白か青白の水引を使用。表書きは(志)でもよい。



● 忌明け(四十九日)後に行うご法事の引出物に付ける場合

■ 黄白の水引を使用。



※ご宗派や地方によって多少異なる場合がございます。詳しくはお寺様又は当店におたずねください。

お香典の出し方

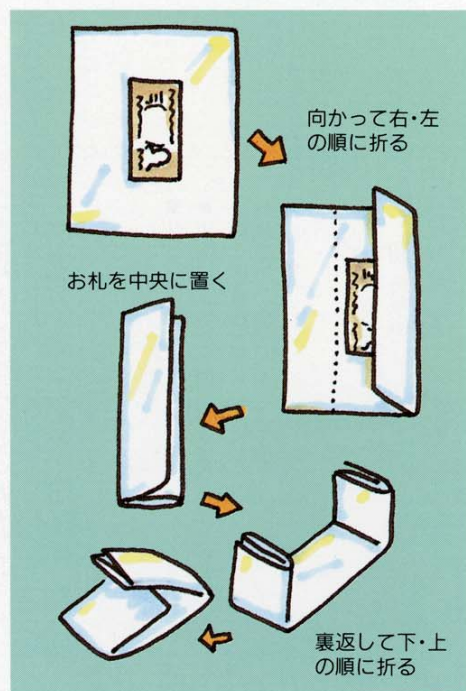
香典はお香料という 意味です。

香典とは、仏の霊にたむけるお香料という意味です。

昔は、各自が香を持って行って、それを焚いて供える仏様に対する六種供養の一種でした。

六種供養とは、華(花)・塗香(香を供える)・焼香(香を焚く)・灯明・水・飲食のことです。

今日では、香そのものを持参することとはなくなりましたが、かわりにお香料というかたちで現金を包むようになりました。



弔事用は重なることを 避け一枚で包む。

香典の包み方には、一定の決まりがあります。

折り方は、二枚重ねの慶事用と違って、香典用は「重ねる」ということを避けるため、一枚紙を使って包みます。

まず、お札を紙の中央に置き、左右を折ります。このとき、向かって右左の順に折ります。つまり左が表になるようにします。つぎに下を先に折って上の折りをその上にかぶせまします。左右と上下の折りが逆になると慶事用になるので注意します。

表書きの下に 名刺を貼ってもよい。

表書きの下には、小さめの字で自分の氏名を書きます。これらの文字は哀悼の気持ちを現わすために、薄墨で書くのが正式とされています。

しかし、かわりに名刺を貼ってもかまいません。その場合は、表書きの左下に貼るようになります。

住所・氏名・金額を 忘れず書く。

市販の香典袋に記名する時は、遺族の方と親しい間柄であっても必ずフルネームを書きます。「吉田」「鈴木」だけでは、わからないことがあるか

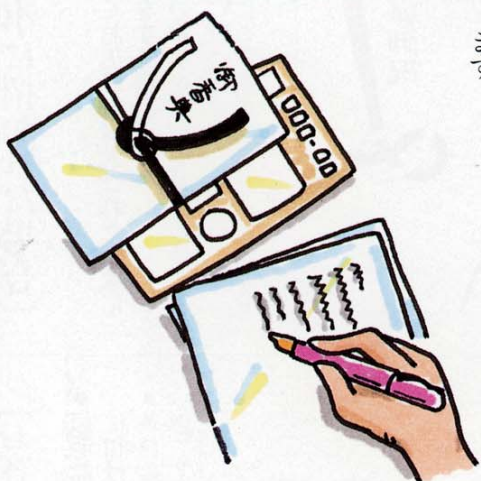
らです。また住所の記入を遠慮する人がいますが、これも遺族や関係者が整理する時に困ることになりますので、記入しておくのが遺族に対するエチケットです。金額は内袋の表中央に、漢数字で書きます。あらかじめ書く欄が印刷されている場合は、そこに書きます。

哀悼の気持ちをこめて お香典を郵送します。

通夜・告別式ともに出向けない場合は、「現金書留」にて香典を郵送します。

その場合は、現金を弔事用の金包みに入れてからにします。その際、必ず出向けない理由と故人を偲ぶ旨の手紙を添えるようにします。

電報が替で香典を送ったり、銀行に振り込むようなやり方は、香典の趣旨にそぐわないのでしないようにします。



◆全国優良仏壇専門店会加盟店◆

〈仏壇、仏具、神具、寺院用具、墓石〉

創業百余年

佛壇の升谷

本店
〔仏壇・寺院用具〕
石材部
〔墓石展示場〕

秋田市大町一丁目4-37
電話 018(824)3181
秋田市寺内蛭根3-23-11
電話 018(863)8284



※地方の風習・習慣により作法が異なる場合がございます。必ずご確認ください。